



福興レター 第12号

令和6年3月

※背景写真: 原町南部地区 田植えの様子

福島への復興・復興への挑戦

はじめに、令和6年1月1日に発生した能登半島地震で亡くなられた方々に対し、深く哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。地震による多数の家屋倒壊や津波による被害状況などは、東日本大震災で被害を受けた福島県の姿とも重なり、大変心が痛む思いです。わずかでも能登半島の復興の励みとなるよう、本県の復興の姿を情報発信していくとともに、次世代を担う子どもたちが、夢や希望をもって農業に取り組むことができるように、今後も挑戦を絶えず続けてまいります。

今年度は2県3名の方に福耕支援隊として相双地方の復興にご協力頂きました。そのご活躍の様子を今回の福興レターでお届けします。

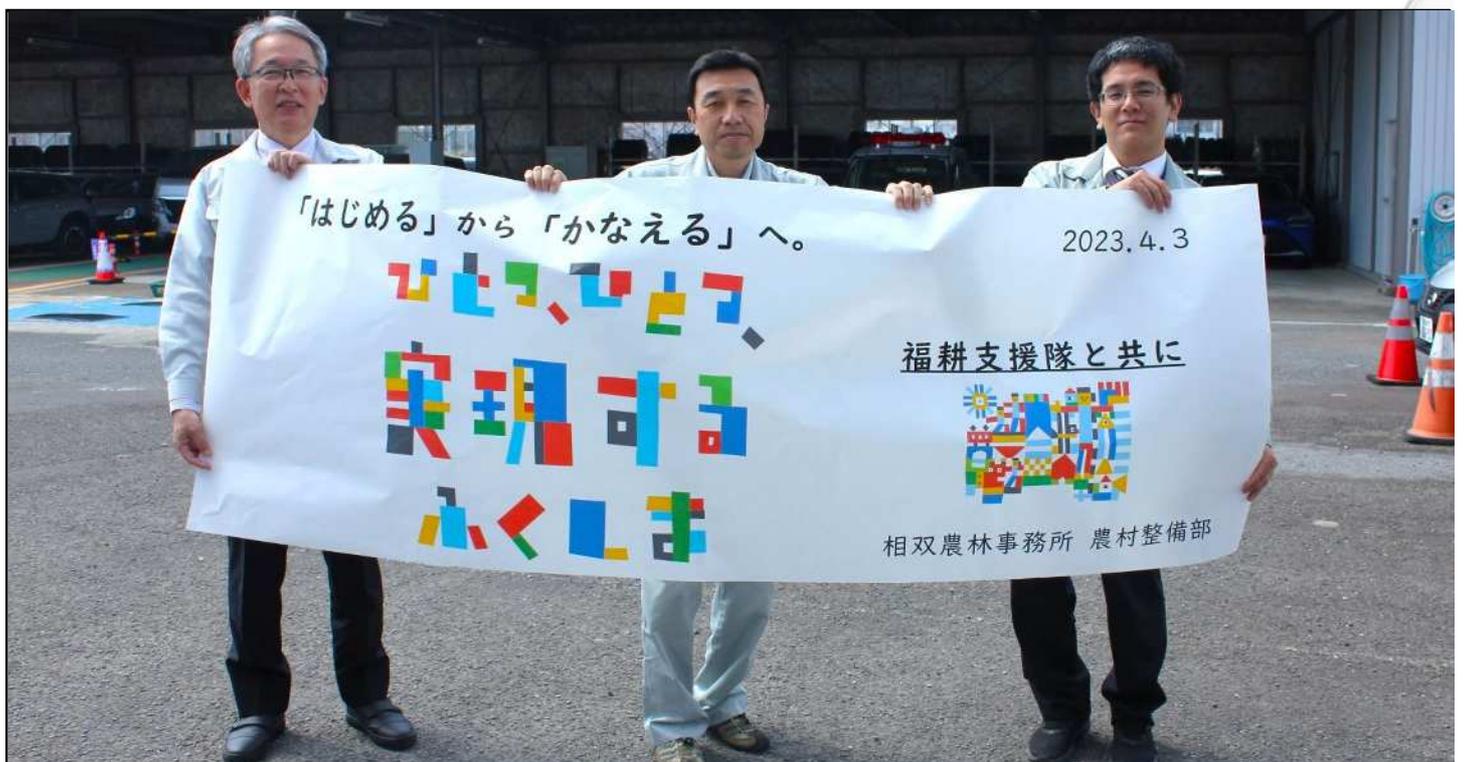
皆様より頂いたこれまでの御支援に心から感謝申し上げますとともに、皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



飯舘村の長泥地区においては、除去土壌を再生資源化して農地造成に利用する実証事業を実施しています。試験栽培の実施状況を調査しました。

福島県農林水産部次長（農村整備担当） 宍戸 潤一

福耕支援隊の皆さん 集合！！



これまでの福耕支援隊の支援体制(配置人数)

区分	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		
	箇所数	名 称	箇所数	名 称	箇所数	名 称	箇所数	名 称	箇所数	名 称	
派遣元	農林水産省	8局 北海道、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、九州、沖縄	8局 北海道、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、九州、沖縄	7局 北海道、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、沖縄	7局 北海道、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、沖縄	7局 北海道、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、沖縄	7局 北海道、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、沖縄	7局 北海道、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、沖縄	7局 北海道、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、沖縄	7局 北海道、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、沖縄	
	都道府県	27道府県 北海道、青森、栃木、群馬、新潟、静岡、富山、石川、福井、長野、山梨、岐阜、滋賀、愛知、京都、大阪、島根、岡山、広島、山口、愛媛、香川、福岡、長崎、大分、宮崎、沖縄	16道県 北海道、青森、秋田、栃木、群馬、埼玉、神奈川、新潟、山梨、長野、滋賀、山口、愛媛、福岡、大分、沖縄	12道県 北海道、青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、山梨、滋賀、山口、愛媛、大分、沖縄	11道県 北海道、青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、滋賀、山口、愛媛、大分、沖縄	11道県 北海道、青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、滋賀、山口、愛媛、大分、沖縄	11道県 北海道、青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、滋賀、山口、愛媛、大分、沖縄	11道県 北海道、青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、滋賀、山口、愛媛、大分、沖縄	11道県 北海道、青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、滋賀、山口、愛媛、大分、沖縄	11道県 北海道、青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、滋賀、山口、愛媛、大分、沖縄	11道県 北海道、青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、滋賀、山口、愛媛、大分、沖縄
	市町村		3市 新潟県新発田市 富山県富山市 富山県南砺市	6市 新潟県新発田市 富山県富山市 福井県大野市 新潟県小千谷市 富山県南砺市 長崎県諫早市	4市 新潟県新発田市 富山県富山市 福井県大野市 長崎県諫早市	4市 新潟県新発田市 富山県富山市 福井県大野市 長崎県諫早市	4市 新潟県新発田市 富山県富山市 福井県大野市 長崎県諫早市	4市 新潟県新発田市 富山県富山市 福井県大野市 長崎県諫早市	4市 新潟県新発田市 富山県富山市 福井県大野市 長崎県諫早市	4市 新潟県新発田市 富山県富山市 福井県大野市 長崎県諫早市	
派遣先	県	2事務所 県中農林事務所 相双農林事務所	1事務所 相双農林事務所	1事務所 相双農林事務所	1事務所 相双農林事務所	1事務所 相双農林事務所	1事務所 相双農林事務所	1事務所 相双農林事務所	1事務所 相双農林事務所	1事務所 相双農林事務所	
	市町村	5市町 須賀川市、相馬市、南相馬市、広野町、新地町	7市町 須賀川市、相馬市、南相馬市、広野町、新地町、榑葉町、浪江町	7市町 須賀川市、相馬市、南相馬市、広野町、新地町、榑葉町、浪江町	6市町 須賀川市、相馬市、南相馬市、広野町、新地町、榑葉町、浪江町	6市町 相馬市、南相馬市、広野町、新地町、榑葉町、浪江町	6市町 相馬市、南相馬市、広野町、新地町、榑葉町、浪江町	6市町 相馬市、南相馬市、広野町、新地町、榑葉町、浪江町	6市町 相馬市、南相馬市、広野町、新地町、榑葉町、浪江町	6市町 相馬市、南相馬市、広野町、新地町、榑葉町、浪江町	
人数	294名		353名		307名		258名		241名		
区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		
	箇所数	名 称	箇所数	名 称	箇所数	名 称	箇所数	名 称	箇所数	名 称	
派遣元	農林水産省	8局 北海道、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、九州、沖縄	7局 東北、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、九州	5局 東北、関東、東海、近畿、中国四国	2局 東北、中国四国	1局 東北					
	都道府県	11道県 北海道、青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、滋賀、山口、愛媛、大分、沖縄	10道県 青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、神奈川、滋賀、愛媛、大分、沖縄	10県 青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、神奈川、静岡、滋賀、愛媛、沖縄	9県 青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、長野、静岡、滋賀、沖縄	7県 青森、秋田、埼玉、新潟、静岡、滋賀、沖縄					
	市町村	3市 福井県大野市 岡山県総社市 長崎県諫早市	2市 長崎県諫早市、鹿児島県日置市								
派遣先	県	1事務所 相双農林事務所	1事務所 相双農林事務所	1事務所 相双農林事務所	1事務所 相双農林事務所	1事務所 相双農林事務所	1事務所 相双農林事務所	1事務所 相双農林事務所	1事務所 相双農林事務所	1事務所 相双農林事務所	
	市町村	7市町 相馬市、南相馬市、広野町、新地町、榑葉町、浪江町、川内村	5市町 相馬市、南相馬市、新地町、榑葉町、浪江町	5市町村 南相馬市、新地町、榑葉町、浪江町、飯館村	5市町村 南相馬市、富岡町、榑葉町、浪江町、飯館村	2町村 浪江町、飯館村					
人数	196名		97名		65名		17名		13名		
区分	令和3年度		令和4年度		令和5年度						
	箇所数	名 称	箇所数	名 称	箇所数	名 称					
派遣元	農林水産省	1局 東北	1局 東北								
	都道府県	7県 青森、秋田、埼玉、新潟、静岡、滋賀、沖縄	4県 青森、新潟、静岡、滋賀	2県 新潟、滋賀							
	市町村										
派遣先	県	1事務所 相双農林事務所	1事務所 相双農林事務所	1事務所 相双農林事務所							
	市町村	2町村 双葉町、飯館村	2町村 双葉町、飯館村	2町村 双葉町、飯館村							
人数	13名		9名		5名						

福島県相双農林事務所の現状

昨年度に引き続き、令和5年度を振り返って、当所農村整備部の主なトピックを書き出しました。

1. 原町東地区（南相馬市原町区）、真野地区（南相馬市鹿島区）、八沢地区（相馬市・南相馬市鹿島区）の事業完了

平成25年度から着手した大規模な（合計面積A=838.1ha）ほ場整備の3地区が事業完了を迎えました。3地区とも工事のみならず、様々な非農用地調整を経て完了に漕ぎ付け、まさに工事担当・換地担当全員による総力戦の成果でした。

2. ほ場整備における新たな取組～畑地化の推進、管理省力化～

復興ほ場整備においても高収益作物の導入を進めています。令和4年度に着手した小屋木地区（南相馬市小高区）では、受益面積の過半を畑地に転換整備する工事に着手した他、地区面積の大半を畑地化する計画地区も生まれつつあるなど、「営農再開」だけではなく、持続可能な農業の定着に向けた動きが広がっています。

また、畦畔等の草刈りに大型機械の導入を図るため、幅広畦畔や額縁農道の導入も進んでいます。

このような明るい成果を生み出せている土台は、大震災直後からの長きに渡る、福耕支援隊の皆さんの御支援のおかげであることを、日々肝に銘じているところです。

これからも、継続する復興事業地区の一日も早い完了を目指しつつ、新たな事業地区の一日も早い着手を進めていくことが、当事務所農村整備部の使命と考えています。

福耕支援隊の皆様には、是非この地域を再び訪れていただき、皆様の取組の成果を感じていただきたいと思うとともに、引き続きの御支援・応援を賜りますようお願い申し上げます。

相双農林事務所 農村整備部長 先崎 秋実

相双地方の営農再開の状況について

津波被災、及び原子力被災12市町村におけるほ場整備事業は、令和6年3月末時点で、3,601ha（44地区）の農地で展開されており、うち、2,700ha（75.0%）で営農再開が可能な状態まで整備を完了しました。

特に、令和5年度には新たに原町東地区、真野地区、八沢地区が事業完了し、震災後のほ場整備で完了した地区は計6地区となりました。

（R1：作田前地区、R2：金沢・北泉地区、R3：和田地区）

令和6年度は35地区で引き続き事業を実施予定であり、整備残面積は901haです。

農業農村整備 復旧・復興のあゆみフォト



農業農村整備 復旧・復興のあゆみフォト



福耕支援隊としての 1年間



農 村 整 備 第 一 課 で の 一 年 間

農村整備第一課 山田 直明副主査 (滋賀県)

滋賀県から派遣されました山田直明です。令和4年度は団体営災害復旧事業の災害査定や計画変更などの業務に従事し、今年度は、農村整備第一課にて、初めて現場整備工事やパイプライン工事を担当し、非常に貴重な経験になりました。ただ、初めてのことで、戸惑うことが多く、至らないことばかりでしたが、周囲の皆様に、仕事の流れや工事内容、予算などなど、いろいろなことを丁寧に教えていただき一年間をなんとか無事に過ごすことができました。規模の大きな工事、膨大な予算と目の前の業務に追い立てられ、しっかりと整理もせずに、やり散らかしている形となり、後任の方に多大な御迷惑をお掛けすることになっていることが少し心残りです。2年間と長い期間のようでしたが、日々を過ごすだけで一杯であつたという間に、この年度末を迎えました。

業務以外では、この2年間で、見て、食べて、飲んで、温泉に入っていると福島をかなり満喫することが出来ました。中でも趣味である登山では、高山植物がたくさん山の山や、紅葉の山、雪渓が残る山など行くことができ、そして、昨年度は行けなかった樹氷を今年は見に行くことができ、福島県の自然の雄大さにすごく感動しました。また、福島の常磐ものの魚や日本酒も非常においしく、食べ過ぎ、飲み過ぎになって



▲冬山の樹氷にて



▲ソフトボール大会に向けた夜間練習

しまっています。まだまだ、食べたい物、飲みたい物、登りたい山がありますので、今後も福島県に訪れたいです。終わりに、関わってくださったすべての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

福耕支援隊としての 1年間



大震災から
13年を迎えて

農村整備第一課 富井 博文主査 (新潟県)

東日本大震災の発生から13年が経ちました。私は大震災が起きた時は新潟県に居て、震度4の揺れが起きた事を覚えています。この大地震で福島県、他近県に大きな大災害が起きていたことは想像も付きませんでした。

福島県は全国の都道府県で面積が3番目と大きく、隣の新潟県は全国5番目に大きなところですが、会津若松市、猪苗代町、いわき市には何度か来た事がありました。被災の大きかった南相馬市方面は、何処も地名が解らないところばかりでした。この大災害で、原発事故の付近から各所被災地を見ても悲痛な思いを感じました。

現在、福島県は復興が進んでいますが、まだ簡単に復興できないところがいっぱいあり、道のりが長いと痛感します。復興を遂げた農地・農業用施設により、徐々に営農が再開されて来ましたが、地域によって復興の進みが異なることも実感しました。

私はこの復興基盤総合整備業務に携わりましたが、技術的に難しいことがたくさんあり、福島県職員の皆様にご指導頂きながら技術業務や地域の方々との調整等、大きな勉強になりました。新潟県の中越地方でも、2004年10月23日(土)17時56分に震度7の大地震「新潟県中越地震」が発生しました。東京とつながる上越新幹線は脱線事故



▲担当現場での暗渠布設の様子

を起こし、河川・ダムの崩壊、農地も広い地域で大災害が起きました。この災害復旧で福島県職員の方々が新潟県中越地区へ応援に来てくださり、新潟県復興支援に携わって頂きました。福島県職員の皆様には本当に感謝いたします。

この東日本大震災で大災害が起きた福島県、一日も早く復旧・復興が進み、営農も再開して地域活性化して欲しいと思います。

福耕支援隊としての 1年間



福島は第二の ふるさと

農村整備第二課 関 敏明主査 (新潟県)

新潟県から派遣されました関敏明です。震災と原発事故から13年が経過し、一歩ずつ着実に復興が進んでいると感じています。避難指示が出された地域の営農再開率は、南相馬市で7割近くになりました。また、南相馬市のブロッコリー産出額は、農林水産省が公表している市町村別で福島県内1位、全国でも上位に入るなど、大きな産出額を誇っているニュースを見聞きし、その復興の一部分に自分が携わっていることに身の引き締まる思いです。

担当する真野地区は今年が完了年度です。課題をひとつひとつ整理し、地域の担い手、土地改良区等と工事及び換地のスケジュールを共有し、12月の事前説明会、1月の権利者会議で疑義は出されず承認されました。補完工事のとりまとめの仕事ができたのは、非常に貴重な経験になりました。関係者と地域を歩き、さまざまな要望にきめ細かく対応し、設計に反映させる。この仕事では、福島県の職員の皆様には、いろいろなことを丁寧に教えていただき、感謝しております。

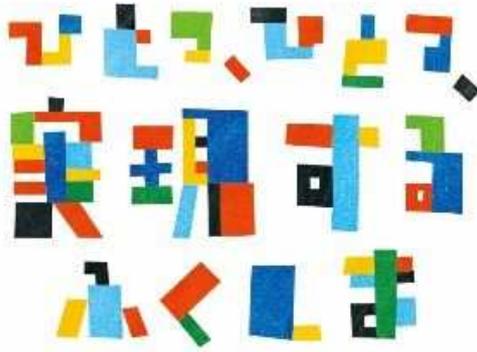
福島と新潟は隣県であり、歴史的にも文化的にもつながりが深いです。私の生まれ育った魚沼は只見町と接し、JR只見線の始発であり終点です。只見線は、一昨年の10月に、11年ぶりに全線で復旧し、いま多くの利用客でにぎわいを見せています。新潟から来る



▲大内宿での1枚

人たちと会津若松駅で待ち合わせをし、福島の観光をするのがこの1年間で何組もありました。会津東山温泉、福島飯坂温泉はおすすめです。観光地は特に、塔のへつりや大内宿は好評でした。これも復興を支援することになるのでしょう。線路がつながり、人がつながり、未来がつながりました。さまざまな選択肢もあつた中で、地元調整、JR協議など只見線の復活に主体的に取り組んでこられた福島県に心より深く感謝いたします。これは奇跡の復活です。

この一年で、福島のたくさん美味しい食べ物や日本酒、自然、歴史、伝統文化などの魅力を数多く体験できました。そして、私にとって福島は深い思い出のある第二のふるさとになりました。これからも福島とのつながりを持ち、応援団となって支援を続けていきます。1年間ありがとうございました。



震災から10年を機に、
福島県は、「ふくしまから はじめよう。」からの
バトンを渡す、新スローガンを策定しました。
「はじめる」から、「かなえる」へ。
ひとりひとりの力を重ね、それぞれの思いを繋ぎ、
ともに、ひとつずつ、しっかりと、
カタチにし続けていこうと。

発行元：福島県農村振興技術連盟
(編集 福島県農村計画課)
電話：024-521-7406
FAX：024-521-7545